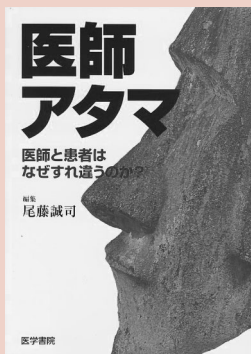


(医療現場の問題解決の Key は「異文化コミュニケーション」)



医師アタマ 医師と患者はなぜすれ違うのか?

尾藤誠司 編 A5判・220ページ
定価 2,310 円(本体 2,200 円+税 5%) ISBN 978-4-260-00404-6 医学書院 2007

評者

鈴木真理子

国立がんセンター中央病院
副看護部長・臨床教員

医師は、医師間だけでしか通用しない 価値体系のなかにいる

昨今の医療現場は、医師のパターナリズムを否定し、インフォームドコンセントに基づく患者の自己決定権尊重を絶対視する傾向にあります。その根底にある患者-医療者、特に医師とのコミュニケーションにおける問題の原因に関してはあまり追究されないうまま、方法論のみが先行されている感があります。

しかし本書は、そもそも医師とは、医師間だけでしか通用しない常識や良識を持ち、その価値体系によって成立された特殊な文化圏の住人であり、「石頭」ならぬ『医師アタマ』の人種だと自覚した現役の医師たちによって、そんな医師の特殊性が根深く存在していることこそが、患者-医師間におけるコミュニケーションの大きな障害になっていることを指摘しているという点で斬新でユニークな書です。

さらに医師と同じ現場で一緒に働きながら、なかなか医師とは対等な関係になれず医師とのコミュニケーションにおいて常に苦慮している、多くの医療従事者たちにとっては医師を理解する上での恰好の書でもあります。

「異文化圏」にいる医師を理解する糸口に

医師たちにとって、医療現場は自分のテリトリーであり、専門用語だけでも十分にお互いの会話が成

立します。そして、自然科学に依拠する病態生理とそれに基づいた因果仮説から治療方針を決めるということが、共通の価値判断基準になっているなどの点において、明らかに患者より優位な立場にいます。

一方、病気になるまでは医療現場という世界をまったく知らなかった患者にとって医療現場は、非日常的な空間であり、ほとんどが初めて経験することです。したがって、いくら細かな説明を受けたとしても、何を基準にしたらいいのかかわからないなかで、今後どうしたいかを自分で決めなさいと言われて困惑したり、反対に自身の気持ちや希望だけでことを決めようとしてしまったりすることもあります。しかし、医療界にあまりにも慣れ過ぎてしまっている医師にとっては、そんな患者の戸惑いや不安は、自分の文化圏外の出来事であって、関心がないのかもしれない。

また、医療現場での出来事が日常的なものであるという点では、医師とは共通点を持っているはずの他の医療従事者にとっても、唯一絶対的な医師の価値観やその価値観に基づいた行動は、賛同し難く、時に違和感を覚えます。

医療という特殊な文化圏において、立場も価値観も異にする者同士が、円滑にコミュニケーションを取っていくためには、医師たちは自身の世界に対して謙虚になること、そして患者や他の医療従事者たちは異文化圏の住人の筆頭である医師を理解し、お互いに歩み寄ることであり、その糸口となる本書は、すべての医療関係者にとって必読の書と言えます。

■ご購入は、最寄の医書専門店または医学書院販売部 電話(03)3817-5657(直通)まで。
ホームページ(<http://www.igaku-shoin.co.jp>)からもお申し込みいただけます。